

令和6年度 関東インフラDX大賞（局長）の受賞について

2025年8月18日

○JR東日本コンサルタンツ株式会社は、国土交通省 関東地方整備局より関東インフラDX大賞（局長）を受賞しましたので、お知らせいたします。

リンク（国土交通省関東地方整備局HP）：[優良工事等局長表彰](#) | [技術情報](#) | [国土交通省](#) [関東地方整備局](#)

[受賞概要]

関東インフラDX大賞は、「生産性向上」及び「働き方改革」等のDX推進に資することを目的とした取組です。本業務は鋼とコンクリートの合成床版を有する上下線 分離構造の上部工（L=218m,L=171m）およびPC梁含む張出し式橋脚の2橋の橋梁の詳細設計を実施しました。詳細設計に当たっては、隣接する供用済みの一般部との交通離隔の確保、建築限界の確保、埋設管への影響等の検討が重要であり、これらの検討にBIM/CIMを有効活用しました。

[取組み内容]

「有効性」「先進性」「波及性」の観点を基に以下の取組みが評価されました。

<有効性>

- 1) 本工区上には東京電力の電線があり、離隔の確保が条件となる。そのため、構造計画、施工計画にあたり、①点群測量を実施→②統合モデルへ組込→③構造計画と施工計画へ活用した。
- 2) 現地踏査にて、現地と予備設計モデルを重ねたARを活用することで、現地にて構造物と周辺状況のイメージを共有し、周辺利用状況や支障物干渉などを確認し、後設計へ活かすことができた。
- 3) NEXCO協議等に於いて、新設橋脚と料金所施設の取合いなどを3Dで示すことで、相互理解の促進、円滑な協議の実施が可能となった。

<先進性>

BIM/CIMモデル等をクラウド上で統合・共有・活用できるシステムを選定し、本業務の統合モデルをクラウド上で共有、活用した。発注者・受注者の誰もが必要なタイミングで活用でき、発注者・受注者間の情報共有や、発注者内の各種資料（委員会等資料）にも活用することができた。

<波及性>

施工計画の3Dモデルに時間軸を追加した4Dモデルを作成した。時間ごとに施工計画を視覚化し、情報を共有することで、全体施工計画への展開や今後の工事発注業務への活用が期待できる。



全体統合モデル



NEXCO協議でクラウド上のモデルを活用



ARを活用した現地調査

